

漁場環境モニタリング調査

岡村貴司・前河孝志・森田 尚・久米弘人・上野世司

◆背景・目的

主たる漁場である琵琶湖北湖盆の漁場環境の動向を把握するための基礎資料とするため、継続して調査を行う。

◆成果の内容・特徴

- 西の湖水草繁茂状況調査(漁場環境調査費、一部、湖辺のにぎわい事業費対応)
 - ・毎月、15定点で鋤簾による水草採集と3定点で採水(水質分析)を行った。
 - ・採集されたのはオオカナダモとサヤミドロ(糸状藻類)のみで、各月の15定点における平均採集量は1~13g/m²であった(糸状藻類含む)(図1)。[参考] 平成14年度: 266~1,934g/m²(同左)。
- 漁場環境保全推進事業調査(漁場保全対策事業費対応)
 - ・11月にヨシ帯11地点14カ所(天然、造成)においてヨシの密度調査を行った。
 - ・昨年と同地点の7地点10カ所の調査結果、5カ所で昨年の密度を下回った。
 - ・新規調査地点については航空写真によりヨシ帯形状を記録した。
 - ・赤野井湾、彦根港沖、安曇川河口沖のイトミミズや貝類等のベントス調査を行ったところ、生息量は過年の変動内にあった。
- 湖底耕耘効果把握調査(湖辺のにぎわい事業費対応)
 - ・志那沖および西の湖の湖底耕耘区において、水質(窒素、リン)、底質(窒素、リン、粒度、AVS等)、ベントスの調査を行った。
- 水生植物除去効果把握調査(多様で豊かな海づくり事業費対応)
 - ・近江八幡市牧地先および津田地先、西の湖において、ホテイアオイ、スズメノヒエ等を除去した水域の水質調査(窒素、リン)を行った。
- 宇曽川沖泥堆積状況調査(漁場環境調査費対応)
 - ・宇曽川河口から500mまでの湖底を調査したところ、泥の堆積は確認されなかった。

◆成果の活用・留意点

- ・今後も継続して、漁場やヨシ帯の動向を把握するためのモニタリング調査を行っていく必要がある。

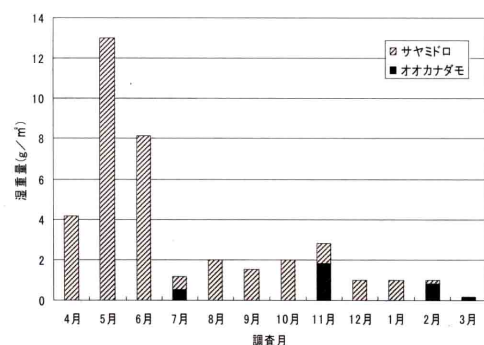


図1. 西の湖で採捕した水草の15定点平均湿重量

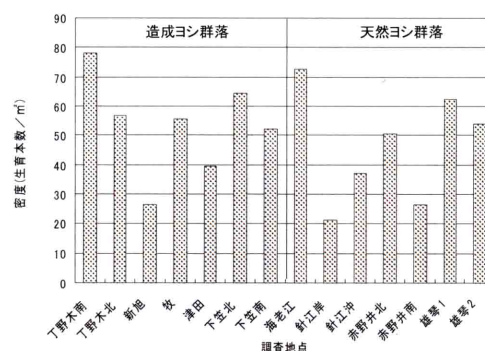


図2. 各調査地点におけるヨシ帯密度